

研究課題名	膵臓癌組織中の telomere 長、g-tail telomere 長、telomerase と予後の関連と、予後予測因子の抽出
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科外科学 教授 高橋 信也
研究期間	2021 年 10 月 21 日(倫理委員会承認後) ~ 2023 年 3 月 31 日
対象者	2010 年 1 月から 2018 年 12 月の間に、広島大学病院医系科学研究科外科学において膵臓癌と診断され、治癒切除が施行された患者で、膵臓癌組織検体から telomere 長、g-tail telomere 長、telomerase 値の測定が可能であった患者さん。
意義・目的	膵臓癌の治療は術前・術後化学療法と手術を組み合わせた集学的治療が行われていますが、5 年生存率は約 10%と未だ不良です。更なる予後の改善には、予後予測因子の同定が必要で、それを明らかにすることで、より強力な治療を必要とする患者さんの選択が可能となり、膵臓癌の予後の改善につながると考えています。他の癌では、癌組織中の染色体の telomere 長、telomerase 値と予後との関連の報告があり、新たな予後予測因子となる可能性が指摘されていますが、膵臓癌では報告例は認めていません。また、Telomere は染色体の機能維持の役割を果たしていますが、telomere の末端には g-tail telomere という構造物があり、後者のほうが染色体の機能維持には重要と報告されていますが、癌の予後との関連は不明です。本研究の目的は、切除標本から、telomere 長、g-tail telomere 長、telomerase 値を測定し、新たな予後予測因子となるかを評価することを目的としました。
方法	膵臓癌切除標本を用いて次世代シーケンサーで膵臓癌組織中の telomere 長、g-tail telomere 長、telomerase 値の測定を行い、研究者が所属する医系科学研究科 外科学の診療録等の過去の診療情報を用いて、専ら集計、簡単な統計処理を行う研究です。研究に用いるデータは、研究対象者の基本情報（年齢、性別）、画像診断情報（CT 検査、PET-CT 検査、MRI 検査）、手術関連情報（術式）、病理組織および細胞診断情報、術前術後療法の情報（化学療法、放射線療法等）、術前後の血液検査情報、術後予後情報、等（詳細は別紙参照）であり、研究は同一施設内に限り情報は外部には提供しません。解析方法として、膵臓癌組織からの telomere 長、g-tail telomere 長、telomerase 値、患者背景因子、臨床病理学的因子、全生存期間、無再発生存期間を算出します。得られた情報を用いて、膵臓癌組織から測定した 3 項目が新たな予後予測因子となるかを解析します。（個人を特定可能な情報は解析に用いません）
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科外科学 教授 高橋 信也
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形

で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に試料・情報を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5216

広島大学大学院医系科学研究科外科学 職名 准教授 上村 健一郎

研究機関：広島大学